

いきいきとした町づくりをめざして

議会だより かつうら

No.12

2000. 8. 15発行

発行 徳島県勝浦町議会
編集 議会広報調査特別委員会
〒771-4395 徳島県勝浦郡勝浦町久国
TEL (08854) 2 - 2511

6月議会で決まったこと — 2

委員会の活動報告 — 4

新しい委員会構成 — 5

一般質問に11議員が登壇 — 6

おじゃまします・議会のうごき — 16



笑顔がいっぱい!! 夏本番 (横瀬小学校)

森林共済保険料268万円など

万円を可決

38億1,081万円に

6月定例議会

このようなことが決まりました

国民健康保険特別会計補正

398万4千円を追加

成人病検診を充実

- ・ 人間ドック 50人
(自己負担5,400円、補助30,600円)
- ・ 脳ドック 30人
(自己負担6,000円、補助34,850円)
(申し込みは8月31日までに税務課へ)

六月八日から十九日までの十二日間開かれ、補正予算、条例改正など四議案と議員提出の二議案を審議し、全員一致で可決しました。

また、土地開発公社の経営状況など三件の報告と副議長の選挙、常任委員会および議会運営委員会委員の選任が行われました。

一般質問では、十一人の議員が町の考えをただしました。

議案に対する主な質疑

問

生比奈財産区の森林共済保険料二百六十八万七千円は何年間の保険料か。

答

四十五haのうち二十五haが昨年二月に契約が切れていた。残り二十haも七月に契約期限がくる。この金額は、両方の十年間の保険料である。

問

他の町有財産などの保険に契約切れや未加入のものはないか。

答

まだ一部確認の必要がある。しばらく時間が欲しい。

問

災害の程度による見舞金の額はどうなっているか。

答

住宅の全焼、全壊、流半壊十万円、一部損壊五万円、床上浸水三万円で、身体については死亡二十万円、負傷三万円となっている。

問

人間ドック、脳ドックの希望者が多い場合、補正で対応するのか。また、どちらかに希望が片寄った場合どうするのか。

答

次年度にお願いし補正対応はしない。脳ドックは三十人以上の受け入れはできないとのことである。

子育て支援事業515万円

2,871

予算総額



横瀬たけのこクラブ（放課後児童健全育成事業）

議員提出議案

道路特定財源の堅持を求める意見書

勝浦町の道路整備は、全国平均から著しく遅れているので、引き続き揮発油税などの道路特定財源を堅持するとともに、予算の傾斜配分などを行うようにという内容。提出先 総理大臣、大蔵大臣、建設大臣ほか。

30人以下学級の早期実現を求める意見書

今、学校ではいろいろな問題を抱えており、行き届いた教育実現のため現行の四十人学級を改め、三十人以下学級を早く実現させることを要請する内容。提出先 総理大臣、文部大臣、大蔵大臣ほか。

副議長選挙

福德重二議員を指名推選



福德副議長

いづみあつし

六月議会において副議長に就任いたしました。議長を補佐し議会円満を心として議会運営に努めてまいりたいと思っております。浅学非才ではありますが、責任を果たすため精進努力いたしますので、町民皆様のご指導をお願い申し上げます。

請願・陳情

勝浦町に文化の殿堂「人形会館」の建設を求める請願 提出者 井戸端塾・殿川武男氏、勝浦座・池内勲氏、外一千百十五名 産業建設常任委員会に付託されました。

県道十六号線掛谷地区道路改良に関する陳情 提出者 掛谷区長 丸田晶一氏 勝浦川整備促進特別委員会に付託されました。

臨時議会

五月三十日開かれ、平成二十二年勝浦町住宅新築資金等貸付特別会計補正予算（繰上充用）について議決しました。

主な質疑

問 他町村でも滞納額が多いようなので、ともに研究、検討して解決の道をさぐってはどうか。

答 他町村の事情も聞き、対処していきたい。

総務

生比奈財産区 十年間の森林保険に加入

五月三十日、委員会を開き、森林共済保険問題などについて協議しました。

問 生比奈財産区の保険の状況は。

答 二十haは十一年二月二十五haは十二年七月に切れる。運営費用が少ないので、町が保険をかけてほしいという財産区の要望である。

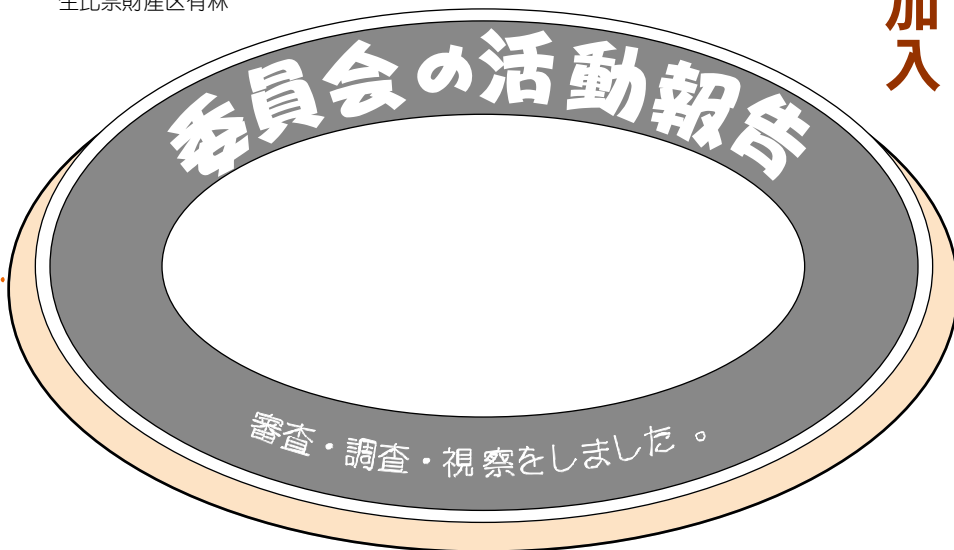
問 財産区との取り決めはどうか。

答 保険料を町が負担し、木を伐採した時に保険料を差し引き、残りを折半する。

協議の結果、契約期間十年、補償率は六十%で、約二百七十万円の保険料を町がかけるということで財産区と協議し、予算計上することに決定しました。



生比奈財産区有林



厚生

中角住宅二戸 入居者を公募

五月二十二日と六月六日、委員会を開き、子育て支援事業や住宅問題などについて協議しました。

中角八宮住宅

問 入居予定者が取りやめとなったと聞か。

答 七月の広報で一般公募したい。

問 住宅新築資金

答 滞納額は現在いくらか。

問 九戸分で二千七百三十二万円である。

答 生比奈小学校十人、横瀬小学校二十人で、料金は生比奈が月六千円、横瀬は月六千五百円である。また、七月と十二月は七千五百円、八月は一万円となっている。

子育て支援 放課後児童健全育成事業

問 利用人数と料金は。

答 事故の対応は。児童クラブで保険に加入している。



公募で入居者が決まった中角住宅

新 しい 委 員 会 構 成

総務常任委員会

(企画、財政、税務、教育などを調査・審査)



溝田義昭委員長



川端雅夫副委員長



原田昭三委員



西浜勝己委員

厚生常任委員会

(社会福祉、環境衛生などを調査・審査)



森 敏治委員長



中田丑五郎副委員長



森 健委員



神原 忍委員



中西晴美委員

産業建設常任委員会

(農業振興、県道、町道の整備などを調査・審査)



宮本久治委員長



国清 栄副委員長



福德重二委員



押栗義雄委員



井出幸夫委員

議会運営委員会

委員	副委員長	委員長
中田丑五郎	森 健	押栗義雄
福徳重二		
井出幸夫		
西浜勝己		

市町村合併調査研究会発足

合併のメリット、デメリットなどを調査、研究するため六人の議員を選出しました。

会長	副会長	委員
西浜勝己	井出幸夫	中田丑五郎
		国清 栄
		森 健
		押栗義雄

放課後児童健全育成事業

事故等に対する備えは万全か

各種保険で対応（福祉課長）

森 健 議員



問 ボランティアによる子供会事業で、事故が起きたことがあったが、この事業では、どのような備えを考えているのか。

答 光井福祉課長 児童は、強制保険や任意保険に加入している。また、指導員も任意保険に加入し、保育中や往復途上で障害を被った時など、保育所の管理責任や業

務責任に関係なく補償すること、町および学童保育の責任者が児童や第三者に対して賠償責任が果たせるようにしている。

児童の健康と安全に配慮して事故防止に万全を期さなければならぬと考えている。

運営の基本と内容は

安心して託せるものであり、楽しいメニューが豊富（福祉課長）

問 子供は家の宝であると同時に、次の時代を担う宝でもある。

適切な環境下において家庭と社会の両面から大事に育成されなければならない。事業運営の基本的な考えと内容は。

答 光井福祉課長 児童福祉法に定められた事業として運営される。生比奈、横瀬小学校にそれぞれ放課後児童クラブ運営委員会を置き、学童クラブと相談しながら、働く人の子育てを支援する。保護者にとっては信頼できるものであり、児童が楽しんで参加できるものが計画されている。日曜日、祝日等

の低下にならないよう最大限努力したい。

答 倉橋助役 補充については臨時職員で対応したい。来春の人事については、今後の検討課題である。

ふるさと会の今後は

結果を急がず時間をかけて（町長）

取り組んでいくのか。

答 戸川産業振興課長 今後は、民間の交流を考

答 川口町長 会員に重い負担をかけないようにして、結果を急がず時間をかけて都会とふるさとをつないでいきたい。

無意味になった条例改正

議会軽視では

議会軽視ではない（町長）

問 いか。

答 倉橋助役 町民や職員に信頼されるよう心が

福徳重二 議員

問 本庁舎の職員を一人減らし、図書館長と社会

問 条例に従って行政運営をしてこそ、公平な住民サービスが提供される。サービス低下にならないか。

答 松浦教育長 厳しい状況だが、住民サービス

以外は春、夏、冬休み期間中も行われる。



なかよく折紙（生比奈児童クラブ）

電気式ごみ処理機補助金を出す考えは



問 課を増やしてから二年もたないうちに、行政改革の一環だと課を減らすなど、短期間で職員的大幅な異動をしているが、不評である。

町長、助役は町民や職員から信頼されていないのではな

教育主事の二人の替りとして、教育委員会事務局を一人増やす条例改正を、三月議会で議決した。

ところが、給食センターも教育委員会が管理することになり、議会の手を煩わせて改正した条例がわずか一月半月で無意味なものとなっている。こんな行政運営では困る。議会軽視ではないか。

答 川口町長 人間がする事とはいかないが、機構改

商業振興

商工会に任せきりではないか

行政も協力し繁栄する町に（町長）



溝田義昭 議員

問 厳しい不況で、町内の商業は深刻な状況にある。

町は産業振興といいながら、商業のことは商工会に任せきりになっているのではないかと、商工会や商店の生の声を聞くべきだ。

答 戸川産業振興課長 現場へ出向いて多くの人の声を聞き、商工振興の勉強



ふるさとのおみやげに感激

問 ふるさと会のすばらしい発展は、役員や会員の努力と行政の支援によるものとして理解している。近畿、関東両ふるさと会が維持発展していくため、今後、行政としてどのように

問 生ごみ処理にコンポスト購入の補助をしているが、コンポストは土地がなければ利用できない。土地を持たない人も利用できる電気式生ごみ処理機にも補助金を出してはどうか。

答 桂木住民課長 高価なので財源的に無理だ。コンポスターが使用できない人は、クリーンセンターを利用してほしい。

町の買物は 町内業者から

をしたい。

川口町長 商工会の意見も聞かせてもらう中で、行政も協力し繁栄する町にしなければと思っている。

問

役場や町関係の施設で使用する物品で、町内業者で賄えるものは町内の業者を利用すべきではないか。

答 戸川産業振興課長 いろいろな点もあったが、今後、担当現場等の管理、監督を強め、町内業者を利用したい。

役場で町外業者の 販売は困る

問 滝花参事兼総務課長 その配慮は必要であり、現在、町内業者で賄えるものはほとんど町内で賄っている。

答 滝花参事兼総務課長 していない人の商売を認めているのかと思う。やめてもらえないか。

答 趣旨に沿えるよう検討したい。

問

役場の中、や敷地内で、町外業者が店を開いていることがあるが、時々あるが、役場は町民のものだ。町税も払っ



役場で町外業者が店開き

露地野菜にも補助金を

現在のところ支出できない（産業振興課長）

川端雅夫 議員



補助が多い。町内にはキュウリ、イチゴ、ナスなど多品目がある。補助金の支出は公平と思うか。

三分の一くらいは露地野菜等にも支出すべきと思うが。

答 戸川産業振興課長 各地区の振興協議会を通じて説明し、要望に応じてきたと思う。露地野菜等については、今のところ支出できないが、今後の検討課題である。

住宅マスタープラン 進み具合は

問 生名地区における現在の調査状況は。

答 桂木住民課長 宅地造成計画は二万一千六百㎡で四十三区画の計画であるが、まだ地元協議もできていない。内部調査の段階である。調査だけで終わってしまっているのか。

問 また、若者向け住宅との関連は。

答 川口町長 財政等時代の変化の中で、若者向

け住宅とあわせて検討する時期にきていると思う。

地籍調査の 取り組みは

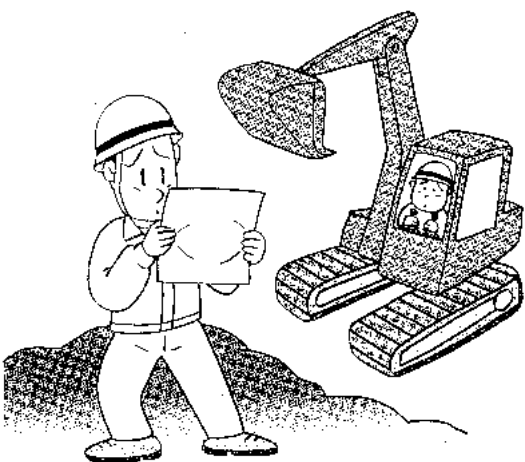
同和対策課廃止とあわせて検討（町長）

問 現在、二十七の市町村が地籍調査を実施しているが、町としての考えは。

答 秋本建設課長 公図の中には現地と合わない箇所があり、建設事業推進にあたっては非常に支障をきたしており、必要性は十分認識している。

問 上勝町では、平成九年から国土調査室を設置し、第三セクターで調査測量を行っている。経費については町が二十五%の負担だが、交付税措置により実質5%ですむ。地権者は杭打ちの出役だけである。積極的に取り組んでは。

答 川口町長 人件費の面もあり、同和対策課の廃止とあわせて今後検討していく。



建設事業に支障 地籍調査を



家族で楽しむあゆまつり

三大イベントの 今後は

問 あゆまつり、みかんまつり、ひなまつりの三つのイベントがあるが、経済効果は。

答 戸川産業振興課長 イベント全体の参加者は十一年度四万二千人である。一人千円の買物をした場合、四千二百万の経済効果と思う。商店街においても多少の波及効果はあるのではないかと。

問 各イベント会場においての千葉県勝浦市、和歌山県那智勝浦町との物産交流の計画は。

答 川口町長 全国勝浦ネットワーク構想の中で対応していきたい。

問 営農指導、専門技術員については「JA、普及センターと協議してきた」という答弁であったが、その後どうなっているのか。

答 戸川産業振興課長 JAと新たな事業の取り組みについて協議してきた。協議しながら指導体制の強化を図っていききたい。

答 川口町長 JA、普及センターとの関連や人材等の問題もあり、三者が協議する中で決めたいと思う。

問 農業に対する補助金は十一年、十二年度とも千五百万円である。園内道運搬機などみかんに対しての

一般質問

自立できる町づくり

人材育成への取り組みは

研修等人材の育成に努める（助役）

中田丑五郎 議員



問 人事、研修、人材育成等を担当する部門を特別に設置し、将来に備える対応が必要と思うが。

答 川口町長 人事係は置いていますが、各課に対応できる幅広い人材の育成が必要である。

問 地方分権が進む中、職員の政策立案能力によって町村間の格差がつく。人材育成への取り組みは。

答 倉橋助役 分権時代の到来で、政策の企画立案能力の差によって自治体が左右されることは同感であり、今後、そういうことを念頭において研修等人材育成に努める。



将来の町づくりの展望は

補助金等

見直しの手段は

問 町長の決断により、補助金等の減額目標を設定しては。

答 川口町長 方向については、まだ煮詰をしていない。

問 行政運営の効率化、各種団体の健全な育成のあり方等を検討する中で、補助金等の見直しを本年度中に行うのか。

答 川口町長 今年中に、各種団体を十分調査し、どうすべきかを決める方向に進んでいる。

緊急地域雇用特別交付金事業の効果は

問 町の自主性に任され、町民にとって必要な事業を町自らが考える機会であり、町の政策立案能力等によって町村間の事業成果に大きな格差が生じる事業である。将来につながる効果的な事業となったか。

答 戸川産業振興課長 阿波勝浦八景選定事業は、町民から計画が上がってきた事業で、町の文化を高める成

果が出ているのではないか。長期の雇用結びついていくのかは疑問ではないかと思う。

行政改革

地区説明会の町民の反応は

問 各地区での説明会の出席者数と町民の反応は。

答 川口町長 出席者数三百七十八人。町民から「こんなに財政状況が悪くなるまでに、早く説明会を開催してほしい」との強い要望があった。これからは町民との対話の中でいろいろと報告してほしい」との強い要望があった。

問 意見や要望等を整理し、何らかの形で町民に示す機会が必要でないか。また、今回限りの説明会となるのか。

答 川口町長 町の基本姿勢を町民に十分理解してもらおうことを基本として、今後説明会を開く必要がある。



「有料化を」との声も

問 理事者が町民に対し、積極的に事業等のPRができるよい機会であったのではないか。

答 川口町長 今回は財政など町政報告が主であり、時間をもっと有効に使うべきであったと反省している。今回のことを教訓として、充実した町民対話ができるよう今後対応していきたい。

行政改革地区説明会

効果はあったのか

改革の第一歩は踏み出せた（助役）

宮本久治 議員



問 住民の意見や要望にはどのようなものがあつたか。

答 信政税務課長 納税組合報償金の質問があり、今、検討中であると答弁した。

答 秋本建設課長 町道の維持補修について問われ、優先順位をつけて対応し、出役による舗装もお願いした。

答 戸川産業振興課長 若い人が定住できる施策を問われ、新たな企業誘致等努力はしているが難しい現状を説明した。

問 地区説明会は効果があつたと思うか。

答 川口町長 行政改革の必要性はわかってもらえたと思うが、出席者が全世代の十七%なので、今後、あらゆる機会に説明し理解を得たい。

答 倉橋助役 議員定数の削減をはじめとする行政改革の経過も説明し、深い理解を得ることができたとの感触をもっている。

改革の第一歩は踏み出せたと認識している。

答 松浦教育長 最近年非行について、今まで以上に学校やPTA、家庭、地域の連携を深める

必要を説明、協力をお願いした。

公共事業ストップか

問 土木建設業者から、公共事業がストップして仕事がないと聞くが、秋本建設課長 現在、動いているのは繰越事業である。主なものとして、国費関係の今山中央線、町単で電源立地促進対策事業、県関係で東部広域農道、南岸農免農道の一部である。

答 十二年度事業では、国費、県単、町単各事業とも、現在、設計を中心に入札までの準備段階である。



12年度事業はまだ準備段階（南岸農免農道）



誘致企業との話し合いはどうなった

誘致企業連絡協議会や工場視察は

問 誘致企業と議会との話し合いが一年以上行われていない。工場視察の計画もあったが、どうなったのか。

答 戸川産業振興課長 企業側と関係委員会との調整をする中で、早い機会に行いたい。

一般質問

県道徳島—上那賀線の改良は

沖野・長柱工区で改良が進みつつある

(町長)

森 敏治 議員



問 徳島市や県に対し、より積極的に働きかけ、早急な対応をすべきだ。

答 川口町長 徳島市と連携し、今やつと長柱地区の改良ができてつつある。上勝町と協力しながら、早く工事が完了するよう努力していきたい。

新坂本トンネルは暗い

照度調査を要請している

(建設課長)

問 トンネル内は反射鏡もつけられたが、非常に暗い。

答 秋本建設課長 昨年、勝浦、上勝両町長が県に陳情し、応急的に掃除をしてもらった。照度調査を早急にしてもらうよう県に要請している。

問 国民体育大会開催以降、県道の改良が進んでいない。用地交渉等問題もあるが、平成十二年度中にどのあたりが改良されるのか。

答 秋本建設課長 沖野地区は、県単事業で二地区に分けて計画されていたが、今年から緊急地方道に格上げされ、国費対応となった。一・六kmの計画の中で、八千万円程の事業費でかさ上げがされている。

長柱地区では、用地交渉はおおむね了解できているが、家屋の移転等もあり時間がかかる。



もっと明るく（新坂本トンネル）



防水工事が必要では（旧坂本小学校）

特産品として

「みかんワイン」を

特産品の開発は必要と思う町長

問 本町はみかん産地である。特産品としての「みかんワイン」の研究開発をしてはどうか。

答 川口町長 町の基幹産業はみかんである。特産品としての「みかんワイン」は必要と思うが、「みかんアイスクリーム」など総合的に考えていく必要があると思う。また、農産加工所や民間の援助が必要であり、いかに効率的に町費を投入できるか検討したい。

旧坂本小学校の

防水工事は

問 五十四年に建設された校舎は、防水工事がされていない。雨漏りする前に防水工事をすべきだ。

答 松浦教育長 二十年余り経過しているが、現在雨漏りはしていない。坂小跡地利用の結論が出た時、改造成工と合わせて防水工事をするのがよいと考えている。

答 戸川産業振興課長 「よってネ市」も売り上げが伸び、町外からは「田舎の味」として喜ばれている。交流人口が増加している中で、加工品を含め特産品づくりを考えていきたい。

新今山橋は中断し 財源有利な広域農道等の推進を

新今山橋をやり上げ、広域等も
できるだけ推進
(町長)

中西晴美 議員



問 町財政がひつ迫する中で、財政的に不利な町営事業である新今山橋に集中投資しているが、その概要は、公債費比率への影響は。

答 秋本建設課長 十一年度末まで七億三千二百六十万円、十二年度から十四年度までで七億九千二百四十万円、合計約十五億二千五百万円で完成見込みである。

答 滝花参事兼総務課長 十二年度では工事費三億五千八十万円の内、起債一億九千七百七十万円の約三十

%に当たる五千七百五十一万円が公債比率に影響する。過疎債は三年据え置き九年元利均等償還であるが、単純に元金のみを九年で割ると毎年八百二十九万円となる。

問 十二年度の主力は新今山橋であり、その他の公共事業が激減しているため、

多くの土木労働者が失業状態にある。その実情と救済策は。

答 川口町長 最近の土木業者は機械化によって労働者の数が減っており、また、兼業農家の労働者が多いので、大きな影響はないと思っている。

答 秋本建設課長 町内五十七業者の従業員数は、三百五十七人で、失業者数は把握できていない。

問 財源が少なくてすむ町内で一番有利な大型公共事業は東部広域農道と南部農免農道である。実質の町費負担はわずかに二%から三%ですみ、一億円の工事をして

新今山橋工事を中断しては



も、二百万円から三百万円あればよい。総事業費十五億円の新今山橋に投入する町費分があれば、百二十億円の事業ができることになる。この有利なウルグアイラウンド関連事業もあと二年が山であり、その後は減少する。

この際、二、三年間は東部広域農道や南部農免農道を推進し、町費の一番多くかかる新

今山橋は中断し、県営事業に移管できるような政策転換をすべきである。

答 川口町長 新今山橋は、

七年前から町営事業としてやりかけているので、このまま仕上げたい。東部広域農道や農免農道の有利性は十分理解しているので、できるだけ推進したい。

答 秋本建設課長 新今山橋は、

県道と県道を結び一級町道であり、緊急地方道に指定されているので県営事業への移管は無理である。

財政再建団体への 転落回避が最重要 課題だ

問 財政再建団体転落の防止策として、十一年度

に一億八千万円、累計で二億四千万円余りの減債基金を積んだが、さらに精一杯対応した場合、最悪の平成十六年度の公債費比率はどうなるか。

答 滝花参事兼総務課長 十二年度から十五年度



財源有利な広域農道の推進を

までの借り入れ予想を十四億六千四百万円とし、三億三千万円程度減債基金を積んで繰り上げ償還したとすれば、債務負担を含む公債費比率は、十六年度は二十八・六%が約二・五%下がり、二十六・一%となる。

問 せっかくの減債基金積み立ても、新今山橋への過大不利な投資をすれば効果がない。財政再建団体に転落しないようにすることが、町政の最重要課題である。町長の決意はどうか。

答 川口町長 再建団体に陥らないよう健全財政に努めたい。

一般質問

情報公開

来年四月から実施できるのか

必ずできるとは言えない（総務課長）

原田昭三 議員



介護保険実施で どう変わったか

問 四月から介護保険制度が始まったが、以前とどう変わったか。

答 光井福祉課長 特別養護老人ホームの待機者は三十二人である。デイサービスの利用者は百三十人で、二割増となっている。ホームヘルプサービスは五十一人で、利用回数は増えている。生きがいデイサービス「みかんの郷」は、一日平均十八人が利用しており、好評である。

答 石尾病院事務局長 医療と共に、介護保険によるサービスが始まり、一割の利用料がいるようになった。利用状況は、デイケア「コスモス」での通所リハビリ四十人、訪問リハビリ十九人などである。

問 利用料一割負担により個人負担が大きくなったため、「コスモス」の利用

問 実施時期は、明確にすべきでないか。

答 川口町長 来年四月から実施できるように最大限努力していきたい。

問 町長は、三月議会で、来年四月から情報公開条例を実施すると答弁をした現在の準備の状況は。

答 滝花参事兼総務課長 文書管理や例規集の整備、審議会の設置という大きな問題がある。来年四月実施に向けてがんばっていくが、必ずできると言い難い状況だ。

者が少なくなったのではないか。

問 石尾病院事務局長 昨年度と比べて、月平均では三百三十人から三百人へと減少している。病院での介護サービスの利用料についても、

特別養護老人ホームと同じように、低所得者に対し利用料の減免をするということであった。広報にもきちんと載せるべきでないか。

答 石尾病院事務局長 七月の広報に載せたい。



登録農家の拡大を

「インターン・ Uターン者」に 補助率の引き上げを

その考えはある

（川口町長）

問 「農業・農村プロモーション協議会」からの提案を、今後どのように具体化していくのか。

答 戸川産業振興課長 かん振興対策、水田を利用した農業部会、ふれあい農業部会、ファームサービス部会の中で、それぞれ研究し、事業展開していきたい。

問 インターン・Uターンして農業に取り組む人に対しては、ハウス施設などへの補助率を引き上げるべきではないか。

答 川口町長 引き上げの考えは持っている。今後、検討していきたい。

問 「よってネ市」の登録者は二百人で、それ以上は受け付けないと聞か、出荷したい人はすべて登録できるようにすべきでないか。

答 戸川産業振興課長 多くの人が積極的に参加できるようにJAに申し入れたい。

行政改革地区説明会

住民要望には明確な答えを

反省し今後に生かしたい（助役）

西浜勝己 議員



答 倉橋助役 明確な答弁ができていなかったことを反省している。今後に生かしたい。

住民に見える

機構改革が必要では

配慮が足りなかった

（町長）

問 四月から十課を七課にし、時をおかず収入役人事の関連で課長や職員の異動を行った。住民から見れば、役場内で一体何が起こったのかと不思議に思っている。機構改革後の各課の体制は万全か。また、町長の見解は。

答 川口町長 機構改革の周知については、住民対話や広報等いろんな機会に徹底を図りたい。課の減による人事異動と収入役人事で短期間にくるくる変わったことは、私の配慮が足りなかった。今後はそのようなことがないよううにしていきたい。

問 収入役の任期は当初から決まっていることだ。説明会でも「町長は二年前に課を増やし、今度は減らした。なぜか」との質問も出された。町長が他地区の説明会に出席していたため、助役が答弁されたが。

答 川口町長 収入役人事では、再任か新任かで期限ぎりぎりまでタイミングがずれ込んだ。課の増減問題は、時代の変化への対応と理解してもらいたい。

町役場 機構改革は万全か



誘致企業 来春採用予定は

誘致企業と もっとと接触を

接触し情報を
キャッチしたい（町長）

問 誘致企業各社における来春の新規社員採用予定は、企業との連絡協議会の計画はどうなっているか。

答 戸川産業振興課長 来春の採用予定については、まだ確認できていない。また、連絡協議会ではできるだけ早く取り組みたい。

問 誘致企業ともっと接触すべきではないか。

答 川口町長 各企業の情報をキャッチすべく接触していきたい。

委員会の 未開催は 議会軽視では

指導できず
反省している
（町長）

問 六月定例議会前に、産業建設常任委員会が開かれなかった。なぜか。

答 戸川産業振興課長 議案として提出するものが少なかった。申し訳なく思っている。

答 秋本建設課長 産業振興課と同様であった。常任委員会開催の必要性は、理事者側だけでなく委員側にもある。機構改革をはじめ、聞きたいことは沢山あった。委員会軽視だ。町長は何の不自然も感じなかったのか。

答 川口町長 課長に指導できなかったことを反省している。

問 地区説明会での住民要望の集約はできているのか。また、その成果は。

答 倉橋助役 町内十五地区を二班にわかれて説明に回った。まだ一カ所実施できていない地区があり、集約はできていない。厳しい町の財政事情と行政改革大綱の説明に時間をかけた。

問 住民のいろんな要望で実現可能な問題と不可能な問題があると思う。できること、できないことを明確に答えるべきと思うが。

原爆写真の展示

子供たちの反応は

戦争はいけないと認識（教育長）



井出幸夫 議員

答 松浦教育長 入学式など支障のないものは、混合名簿で行っている。子供たちが公平感や平等感を持ってきているようだ。

いじめや不登校は

問 いじめ、不登校、学級崩壊という問題は、起こっていないか。

答 松浦教育長 小学校ではないと聞いている。学級崩壊については、昨年少し問題があったが、現在は落ち着いている。中学校では、いじめや学級崩壊はないが、不登校の生徒が二人いる。



食い入るように見つめる児童たち（生小の原爆パネル展）

問 各小学校、中学校において原爆写真パネルの展示が行われたが、子供たちの反応や教育的な効果は。

答 松浦教育長 生徒たちは原爆のすさまじさや悲惨さを知り、戦争はしてはいけないという認識を持つことができたと思う。

男女混合名簿の効果は

問 今年度から始まっている男女混合名簿の教育的効果は。

問 「いじめのな

い学校などあり得ない」という意見もある。一人ひとりの子供たちの状態を把握するために、三十人学級を実現すべきだ。また、三十人を越すクラス数は。

答 松浦教育長

生比奈小学校で四クラス、横瀬で一クラス、中学校で四クラスある。全国の市町村

教育委員会の九十%以上が少人数化を求めている。行き届いた教育のためには定員数を縮小すべきだ。

問 二年後には学校週五日の建設など今後の学童保育のありかたは。

答 川口町長 児童館は財政上難しい。

答 松浦教育長 学童保育の充実を図れるよう考えていきたい。

人事構想を 持っているのか

問 四月に人事異動し、わずか一カ月半でまた移動させられた職員が複数いる。行政改革に反するだけでなく、職員の意欲を喪失させるものではないか。

答 川口町長 反省材料として、今後は慎重に人事異動を考えた。

職員の和の修復を

問 今、役場では、心を一つにして町民のために仕事をするという状況にあるのか。職員組合との関係で朝礼もやめてしまった。さらに、

人間関係においてもぎくしゃくした状況が耳に入る。信頼が壊れれば組織は成り立たない。川口町政は「末期症状」でないかという声さえある。

答 川口町長 いきさつがあつて朝礼を廃止しているが、職員の和は保たれていると思つている。自分が嫌われてもやり通す決意が必要だ。

町長は理念を持って

問 一番気になるのは、町長の考えが揺れることだ。しっかりと考えた方を持つていなければ、混乱を招くだけだ。

答 たとえば、「事業は選択し、あれもこれもはできない」と言いながら、どちらにもいい顔をしている。町長としての理念を持つべきだ。

答 川口町長 住民の立場に立つ時もあるし、職員の見なければならぬ時もある。円満で明るい町政を進めていきたい。

礼儀と和を尊ぶ人間に

勝浦剣道教室

代表者 大久保喜正さん

— 活動内容は。

剣道を通じて青少年の健全育成を図ろうと活動を始め、今年で十九年目になります。

現在、約二十人の小学生と高校生一人、それに大人も混じって、週二回の練習に励んでいます。

過去には、那賀川町大会団体準優勝や数々の個人優勝の実績もあります。子供たちが礼儀を重んじ、和を尊ぶ人間に成長できることを最大の目標としています。

— 議会だよりの感想は。

各議員の質問などを通して町政の動きが鮮明に伝わってきます。毎号必ず読んでいますので、更なる充実を期待しています。

— 議会や町に対しての要望は。

最近、子供の数の減少が目立ってきています。徳島市や小松島市に隣接する地理的条件を生かした定住化施策の充実を望みます。



剣道教室のみなさん



議会のうごき

5 月

- 1日 議会運営委員会
- 3日 議会広報調査特別委員会
- 8日 第3回臨時議会（1日目）
- 8～10日 議会広報調査特別委員会
- 12日 第3回臨時議会（2日目）
- 21日 近畿かつうらふるさと会総会
- 22日 厚生常任委員会
- 23日 勝浦郡町村会総会
- 24～26日 勝名地区正副議長県外視察研修
- 29日 生名区簡易水道落成式
- 30日 第4回臨時議会・議会運営委員会
総務常任委員会
- 31日 専門学校評議員会・土地開発公社理事会

6 月

- 3日 関東阿波かつうら会総会
- 6日 厚生常任委員会
- 8日 6月定例議会開会・全員協議会
- 14～16日 6月定例議会・一般質問
- 16日 議案審議・勝浦川整備促進特別委員会
- 19日 6月定例議会・全員協議会・議案審議・閉会
- 27日 厚生常任委員会
- 29日 産業建設常任委員会
- 30日 徳島県町村議会理事会

7 月

- 3日 総務常任委員会
- 5日 徳島東部広域農道整備事業促進協議会総会
- 6日 勝浦町議会市町村合併調査研究会
- 11日 議会広報調査特別委員会
- 14日 議会広報調査特別委員会
- 19日 産業建設常任委員会
- 21日 議会広報調査特別委員会
- 22～23日 あゆまつり
- 25日 専門学校評議員会
- 26～28日 厚生常任委員会先進地視察研修
- 31日 議会広報調査特別委員会



議会だよりの編集風景

編集後記

残暑お見舞い申し上げます。二十一世紀を目前にして、「地方分権」という大きな変革の時代を迎え、独自性をもった町づくりが求められています。

行政主導から町民参加の町づくりへの転換、開かれた身近に感じられる議会を目指し、町民のみなさんに、議会活動の様子を詳しく、正確に、そしてなによりも読みやすくとこの思いを込めて、「議会だよりの編集に取り組んでまいりました。

みなさんのご意見、ご要望をお待ちしております。
(丑)